

(様式1)

自己評価票

作成日 平成28年4月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870101524		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム お母さんの家	ユニット名	1F
所在地	〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2297-17		
自己評価作成日	平成27年10月30日	評価結果 市町村受理日	平成28年5月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報公表支援センターのホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&JigyosyoCd=0870101524-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年12月10日	評価機関 決 済 日	平成28年4月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

自然が多く残っている地域の中で、ひとつの家族として共に暮らし、自分らしく、そしてそれぞれの役割を持って生活できるように支援している。菜園では野菜を栽培して成長の様子を日々の散歩時に楽しみ、入居者様と共に収穫して季節の味を楽しんでいる。ゆったりとした日々の中で可能な限り自立した生活を、笑顔の絶えない毎日を過ごすことができるようにサポートしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、2階の窓から那須連山の山影が望めるとともに、敷地内の木々から四季を感じることができる場所に立地している。
毎月の事業所便りで、担当職員のコメントを添えて家族等に利用者の日々の生活の様子を報告している。
協力医療機関とは24時間連携体制が取れているので、利用者や家族等の安心につながっている。
職員間のコミュニケーションが良く、職員は笑顔で日々の支援に努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価	
			実 施 状 況	
I 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングが始まる前に、理念を確認すると共に、玄関や各ユニットで目のつき易い場所に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	歌謡・フラダンスボランティアなどの受け入れを行っている。近隣の保育所・乳児園と交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	なかなか地域の人々に、認知症の人の理解や支援の方法を向けることは難しいが、運営推進会で地域の代表者に話を聞いていただき、理解、協力を呼び掛けている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表、地域の代表、市職員、ホーム職員、近隣の同事業所管理者が参加し、2か月に1度開催している。出た意見をサービスの質の向上に活かしている。欠席の委員には議事録を送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	窓口のホーム長が一括している	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外気浴等で、玄関周辺に利用者が集まる為、施錠はしないが、それ以外は防犯に配慮し施錠している。職員全体が、身体拘束をしないケアを認識し、正しく理解している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な事に関わらず、言葉等どのような事が虐待にあたるか、もし自分が言われたらどうだろうと、随時話し合いを持っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	一部の職員は関わっているが、全職員には浸透していない。
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時は重要事項、運営基準、料金表の中から介護保険分と自己負担分の説明、又、該当時の加算項目や入居時の条件など丁寧に説明をし納得された上での契約となっている。
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会、電話等で随時意見や要望を聞くようにしている。
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	毎月1回、経営者、管理者、介護職員と共に全体ミーティングを行い、意見の交換、提案を出し合い運営に反映している。
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	経営者はホームに頻りに訪れ、管理者との連携をとり、職員の状況把握し助言、条件の整備に努めている。
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	勤務に支障のない範囲で、外部研修を受講している。その内容は報告し（プリント等の配布）他の職員の質の向上に努めている。
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	近隣の同事業所との交流はあるが、勉強会をし職員の交流までは行っていない。研修を通じて親しくなった職員によっては交流があり、なるべく聞くようにしている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や居宅支援事業者から話を聞く事が多く、施設見学に訪れた際に本人との関わりが出来る事もあるが、実際には、入居後に信頼関係が出来るよう努めている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人との日々の会話の中で、不安な事、要望の把握に努め対応する事で、信頼関係が出来るよう努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人との会話の中から、本人にとって何を必要としているか把握し、ホームでの生活を予測しながら、話し合い対応に努めている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者1人1人の生活歴を把握し、そこから職員がたびたび学びとり、お互いに支え合うような関係を構築している。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人を中心に常に家族と一緒に考え、どのようにしたらいいか話し合い、家族とお互いの情報を基に支え合う関係を築くようにしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚・友人等、馴染みの人との交流が自由に出来ており、時折、家族と共に外出され、買い物や食事をされたりと楽しまれている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士交流が出来き、支え合いながら、日常生活を活性化させている方もいる。他人との交流を好まない利用者との交流もさりげなく支え、少しずつではあるが、交流が出来ている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、必要時には相談の受け入れが出来るよう、日々のケアを大切にしている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の面接、情報提供から希望、意向を把握している。困難な場合は家族等の意見を聞き、職員で話し合っている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から聞き取り、又、日常生活の中での談話等で把握に努めている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活介護記録、カンファレンスで総合的に把握し、1人1人の生活のリズムに沿った対応をしている。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者への面接、家族等の意見、意向を重視し、職員の気づきによる意見も反映させて介護計画作成に当たっている。 月末にその評価も行っている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、バイタル記録を個別に記録しその情報を共有して実践に活かしながら、介護計画に反映させている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用型共同生活介護サービスを提供する体制が出来ている。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際には、ボランティアに来ていただいたり、在宅マッサージを利用している。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等から希望や要望を聞き受診する医療機関がある。24時間受診体制を整え本人、家族の了解の上、医療が受けられるよう支援している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護等と相談出来るような体制ができている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	経営者が医師の為、情報交換、相談等の連携が出来ており、早期入退院の働きかけを行っている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	マニュアル作成を行い、関係者全員方針を共有している。契約時に本人、家族に説明をしている。重度化や終末期に入った際には、係り付け医師、家族・職員で本人にとってよい事を話し合いを随時、行っていく。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成し目のつく所に置き、急変時や事故発生時に適切な対応が出来るよう、話し合いや勉強会を行っている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火訓練、避難訓練を年2回実施している。利用者、全職員避難場所を把握している。スプリンクラー設置、非常用リュック設置あり。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室への出入りの際には、プライバシーを尊重し利用者の理解を取りつつ注意を払っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話を大切にし、利用者の声に耳を傾け、話し易い環境作りに努めている。又、その表情や気持ちをくみ取りその人らしい生活が送れるよう支援している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れは決まってはいるが、本人の希望や体調を考慮し、無理のないよう声かけしながら、個別の生活支援に努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	介助の必要な利用者には、希望を聞きながら服装選びをしている。 理髪店の定期的な散髪を希望により行っている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前には、テーブル拭き、ゴミ箱セット、食材の仕分け等出来る事は手伝って頂いている。昼食は職員と利用者で、会話をしながら楽しく食事が摂れるように過ごしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたメニューを取り入れている。食事、水分摂取量は記録表で把握し、不足気味な利用者には、代替え品を出すなどして不足緩和に努めている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけし歯磨きを促している。出来ない方には、介助し口腔ケア、義歯洗浄を行い、口腔衛生保持に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックで排泄パターン把握し、トイレでの排泄が出来るよう誘導を行い、尿意がある限りは、おむつ使用は避けている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給も兼ねて、入浴後は麦茶の提供を行っている。又、個々に応じた運動（フロア内歩行、上下肢運動）をし、便秘傾向の利用者には、冷たい牛乳を提供している。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日入浴出来る体制を整え、その方の体調に合わせて入浴している。血圧、体調の状況によりシャワー浴や全身清拭に切り替える時もある。血圧、体調により毎日入浴出来ない利用者もいる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天候を見て、散歩あるいは外気浴に出かけ、程良い運動を行う事で、その方らしい生活リズムを作り、安眠出来るようにしている。以前から、昼寝の習慣があった方には、昼食後ベットで静養をしていただいている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを作り、目的、内容、効能等、常に職員の目のふれる所にある。新しく処方された薬については、服薬後の変化などを観察、確認して上で、必ず記録している。必要に応じ医師に報告、相談し受診の流れがある。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までやってこられた事、好きだった事など、その方が集中してやっている事などを引き出し、塗り絵、歌、掃除、食器拭き、洗濯たたみ等役割を持って生活出来るよう支援している。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩などで、外に出る機会を持つようにしているが、職員の勤務体制に限度あり、1人1人の希望に添えないのが現状である。家族によっては外出の協力をいただいている。家族によっては外出の協力をいただき実施している。

自己評価	外部評価	項 目	自 己 評 価
			実 施 状 況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>可能な方には、職員同伴で買い物をさせていただく事で、本人の満足感を得られるよう支援している。お金は、本人の了解のもと職員が管理している。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>可能な方は、自由に電話をしたりをしている。出来ない場合は職員が代理で行っている。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>フロア内に季節感のある置物、ベランダには季節の草花などを育て、水やりをしたりしている。それらは、季節ごとに手作りで作品を作って飾っている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>フロア各所に座れる場所を設けており、予備の椅子もあり自由に移動している。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族に使い慣れた家具、慣れ親しんだ物の持ち込みは自由であると説明し、持ち込んでいただいている。 本人、家族と相談し居室内が心地よく過ごせるよう工夫をしている。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>助言や誘導、見守りを行い、1人1人の出来る力を活かし、安全に自立を損なわないよう努めている。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない